

事業名	女性活躍推進事業
事業の趣旨・目的	<p>困難や不安を抱える女性の相談支援やピアサポートのための場所づくりなど、行政では手が届きにくい支援に関する事業をNPO等の民間団体に委託することで、誰にも相談することができず孤立している人を、必要な相談機関や関係団体の支援につなげる。</p> <p>生理用品等の入手が困難な女性や女の子へ、生理用品を提供することを通して、その背景や事情に寄り添い、行政の相談機関や民間団体等の情報を提供し、支援につなげる。</p>
事業内容	<p>①つながりサポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の任意団体へ委託し、女性が気軽に立ち寄ることのできる居場所や、互いに情報交換や支えあうピアサポートの場を提供し、必要に応じて相談機関や関係団体（支援団体等）の支援につなげる。 ・生理用品を必要とする女性へ生理用品の提供を通してその背景や事情に寄り添い、行政の相談機関や民間団体等の情報を提供し、支援につなげる。 ・SNS等を通じて、つながりサポート事業（ピアサポートや生理用品の提供）や相談機関等について周知する。
事業効果及び効果検証の概要	<p>本事業では、困難や不安を抱える女性が孤立することなく、必要に応じて相談機関の支援窓口や民間団体のサービス等につながることを目的としているため、実際に居場所となる場所を利用した女性の数や、電話やSNSなどからの相談に対し情報提供した件数を利用実績とし、利用者や連携した機関や団体の声を聞き取りながら、改善点や課題を整理した。</p>
目標達成度及び達成状況に対する評価	<p>【目標】ピアサポートの実施回数 10回、 居場所の利用者数 200人（電話・SNS含む）</p> <p>【実績】ピアサポートの実施回数 55回、 居場所の利用者数 659人（電話・SNS含む）</p> <p>ピアサポートの実施回数、居場所の利用者数ともに当初の目標を上回った。</p> <p>コロナ下で利用者が減少する時期もあったが、継続して事業を実施するなかで定期的な利用につながり、本来の目的である困難や不安を抱える女性のための居場所の提供や、他相談機関等との連携による支援ができた。</p>
今後の課題	<p>本事業開始後も、従前から市で実施している女性相談への相談件数は過去最高であった令和2年度よりも増加しており、本事業の利用者と市の相談窓口の利用者は重なっておらず、年代も異なった。また、本事業で居場所を利用する女性の相談内容には複雑なケースも多かったことから、専門の相談員が対応するよう支援体制の強化を図る必要がある。</p> <p>利用者の主な相談内容の一つとして生活の困窮があげられるため、社会福祉協議会が窓口となっている生活困窮者自立支援事業や、市のひとり親自立支援等との連携を強化し、継続して支援や制度の内容等の情報を共有する必要がある。</p>